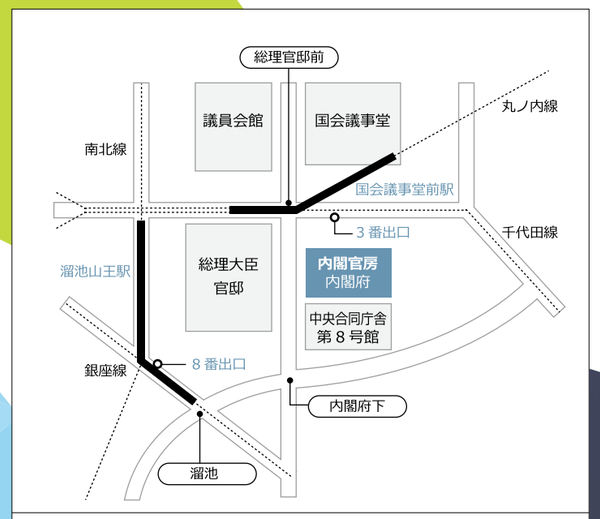


【丸ノ内線・千代田線】
国会議事堂前駅 3番出口 徒歩5分
【銀座線】
溜池山王駅 8番出口 徒歩10分
【南北線 溜池山王駅（千代田線ホーム経由）】
国会議事堂前駅 3番出口 徒歩5分

内閣官房内閣情報調査室
〒100-8968 東京都千代田区永田町 1-6-1 内閣府庁舎 6 階
TEL.03(5253)2107(採用専用) TEL.03(3581)5083(直通)

内閣官房
内閣情報調査室
採用案内 2021

CABINET INTELLIGENCE
and RESEARCH OFFICE

情報の世界を志す皆さんへ

新型コロナウイルスは世界を一変させたが、我が国を取り巻く安全保障環境も複雑化している。北朝鮮は「感染者ゼロ」を主張しながら、弾道ミサイル開発を進めている。中国は、低迷した経済をいち早く回復させ、自国の優位性を強調して国際的な影響力拡大を図っている。また、世界的な感染拡大に伴い、医療・医薬品分野に関するサイバー攻撃も活発化している。

このような情勢下で、内閣情報調査室が果たすべき役割は、内閣の重要政策を情報面から支えることである。我が国最高レベルの政策決定者である官邸幹部への報告には、細心の注意を払わなければならない。分刻みの日程で動く総理や官房長官に対して、迅速に、しかも限られた時間の中でいかに有意義な報告を行うか、楽ではないが、我が国の国益に直接貢献できるやりがいの大きい仕事である。

内閣情報調査室には、我が国情報関係各機関の調整役としての顔もある。政府の情報機能は、ここ数年、着実に強化されてきた。まず、重要機密情報の取扱いを適正化する特定秘密保護法により、外国関係機関との情報共有が大きく進んだ。情報収集衛星についても、体制強化の方針が決定され、各種の整備・開発が進んでいる。官邸の直轄部隊として主に海外で活動する国際テロ情報収集ユニット（CTU）の活動内容も拡充してきた。しかし、我が国の国際社会におけるプレゼンスに比べると、まだ十分とは言えない。経済安全保障やサイバー空間に関連する情報機能強化も求められている。

情報の世界は、誇張したイメージで語られることが多い。小説や映画で描かれる陰謀渦巻くおどろおどろしい世界、特定の「スター」が見せる縦横無尽の活躍、いずれも実際にはあり得ない絵空事だ。現実は、事実関係を淡々と追求する「静的」な世界である。特定の個人に脚光が当たることもない。地道な努力と忍耐力が求められる「縁の下の力持ち」の世界である。そういう世界で、情報のプロたちは高い意欲を持って課題に取り組んでいる。自国のため、公のために力を尽くすという意識が支えとなっているのであろう。諸外国のプロたちと話をしていても、同じ意識を強く感じることが多い。

情報収集にはいくつもの対象分野・手法があり、情報の集約や分析にもそれぞれのノウハウがある。必要とされる人材は、画一的ではない。各分野で実務経験を積むことにより、独自のセンスを磨き、専門性を身に着け、情報のプロとして活躍する職員も多い。自国のため、公のために力を尽くしたい、そんな意識を強く持つ皆さん、柔軟な思考で新たな課題に果敢に取り組む気概のある皆さんが、内閣情報調査室の一員に加わってくれることを心から願っている。

内閣情報官
瀧澤 裕昭
HIROAKI TAKIZAWA

INDEX

01 情報の世界を志す皆さんへ

03 01 インテリジェンスとは何か
内閣情報調査室の業務について

05 内閣の総合戦略機能、内閣官房

06 「インテリジェンス」を紡ぐ

07 総理の目と耳としての役割

08 内閣情報調査室の組織体制

13 内閣衛星情報センター

17 02 キャリアと未来
内閣情報調査室職員の声

19 職員の声

21 対談「情報の世界について」

27 １年目職員の声

29 キャリアステップ

31 両立支援（ワークライフバランス）制度

32 待遇・制度、採用について

33 2021年度採用スケジュール

34 内閣情報調査室の歴史と発展

インテリジェンスとは何か

内閣情報調査室の業務について

都合の良い情報は人を喜ばせるが、私たちを窮地から救ってはくれない。
真実が常に好ましいとは限らない。
しかし好ましからざる真実を伝えてこそ、価値ある判断が下される。
客観的、中立的立場から政策決定者に情報を提供するインテリジェンスとは、
失敗できない政策決定を支える「縁の下の力持ち」なのである。

何が真実かを探求することは、
何が好ましいかを探求することではない

Chercher ce qui est vrai n'est pas chercher ce qui est souhaitable.

— アルベール・カミュ

Mission 01

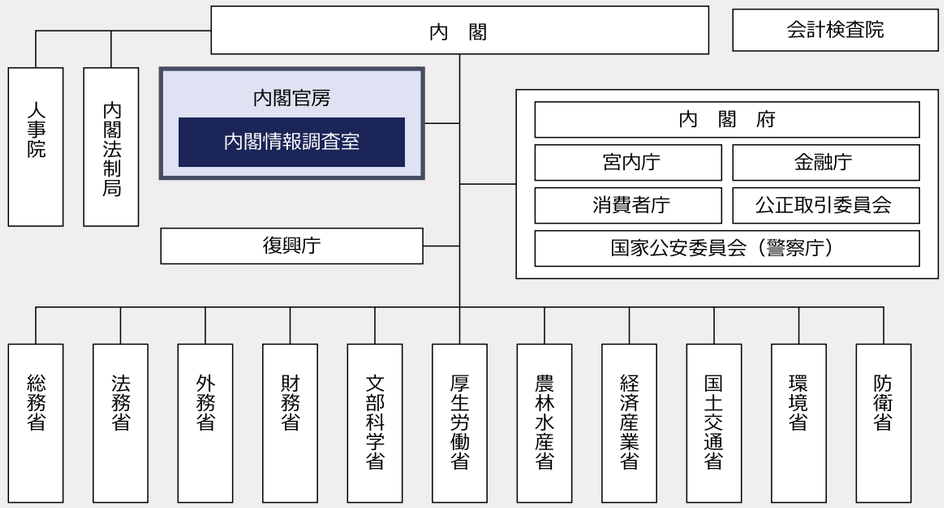
内閣の総合戦略機能、内閣官房

「内閣官房」は、内閣※の補助機関です。内閣の首長たる内閣総理大臣を、直接補佐・支援する、内閣の「総合戦略機能」を担っています（内閣法第12条）。

内閣官房の職務のうち、内閣情報調査室が担当し、内閣情報官が掌理する主な事務は、「内閣の重要政策に関する情報の収集及び分析その他の調査に関する事務」と定められており（内閣官房組織令第４条）、非常に幅広い分野を対象としています。

※内閣：内閣総理大臣と国務大臣で組織

中央省庁機構図



成長戦略会議

日メコン首脳ＴＶ会議

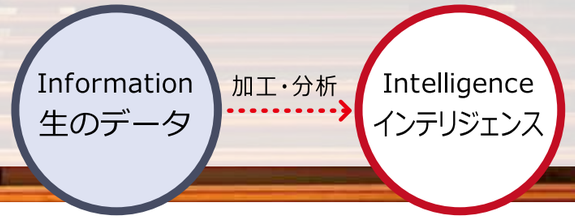
日豪首脳会談

Mission 02

「インテリジェンス」を紡ぐ

内閣情報調査室の業務は、一般的な行政事務とは趣が異なります。
タイムリーで質の高い「情報（インテリジェンス）」を紡ぎ出すことが、私たちの仕事です。

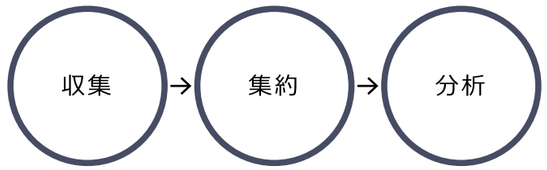
私たちを取り巻く様々な国内外の情勢や重要課題について、背景の調査・現況の把握と今後の動向の分析を、客観的・中立的・多角的な観点から行います。



●内閣情報調査室における「インテリジェンス」の創造

収集：フットワークを生かす
国内外の様々な人から話を聞くほか、公開情報の収集、海外の情報機関との情報交換、人工衛星による画像情報の収集等、積極的に情報収集を行っています。

分析：物事の背景、真相を解き明かす
様々な情報収集手段（公開情報、衛星画像、人的情報等）によって得られた情報に基づき、分析を行います。

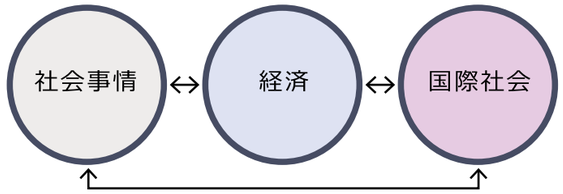


当室の業務は、時に「新聞記者」「学者」「商社マン」といった言葉になぞらえられます。こうした例えは、私たちの業務がいわゆる役人的な型にはまらないものであることを言い表していると思います。

●縦割りにとらわれないオールジャパンの視点

特定の政策や分野に縛られない“オールジャパン”の視点から業務が行えることは、当室の大きな特徴のひとつです。

内閣情報調査室は、「内閣の重要政策に関する全ての情報」を取り扱っています。他省庁がそれぞれの掌理する範囲内の情報を取り扱うのに対し、当室では特定の事項に限定されることなく、幅広い事象を対象として情報の収集・分析を行っています。



Mission 03

総理の目と耳としての役割

～政策決定プロセスの支援～

情報機関の役割は、政策決定者の判断を助けるための支援です。

政策決定者が国家の進むべき方向性を決定する際、背景事情やリスク・利益といった物事の見通しがなければ、正しい判断を行えません。インテリジェンスとは、いわば国家という大きな船が航海する上での不可欠な海図なのです。

●インテリジェンスの提供

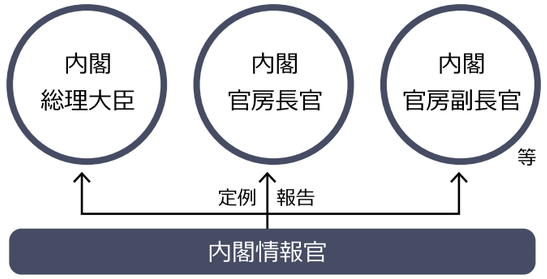
内閣情報調査室が提供するインテリジェンスは、様々な場面で国の政策決定を支援しています。

内閣総理大臣への定例報告

毎週定例の内閣総理大臣への報告を行っています。重要かつ緊急を要する情報については随時報告されます。総理の目と耳としての役割を果たし、官邸の柔軟かつ機敏な政策決定を支援するのが当室の役割です。

国家安全保障会議（NSC）への参加

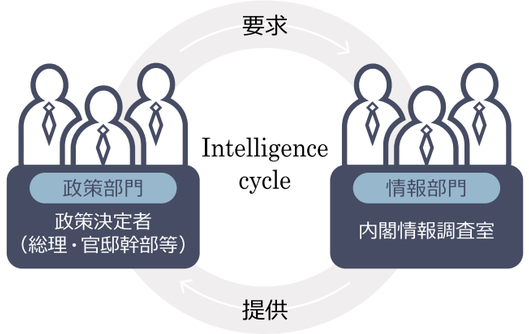
ＮＳＣに提供された情報は、国家としての政策立案等のために活用されています。



●インテリジェンス・サイクル

情報と政策は、分離しつつも密接にリンクしています。

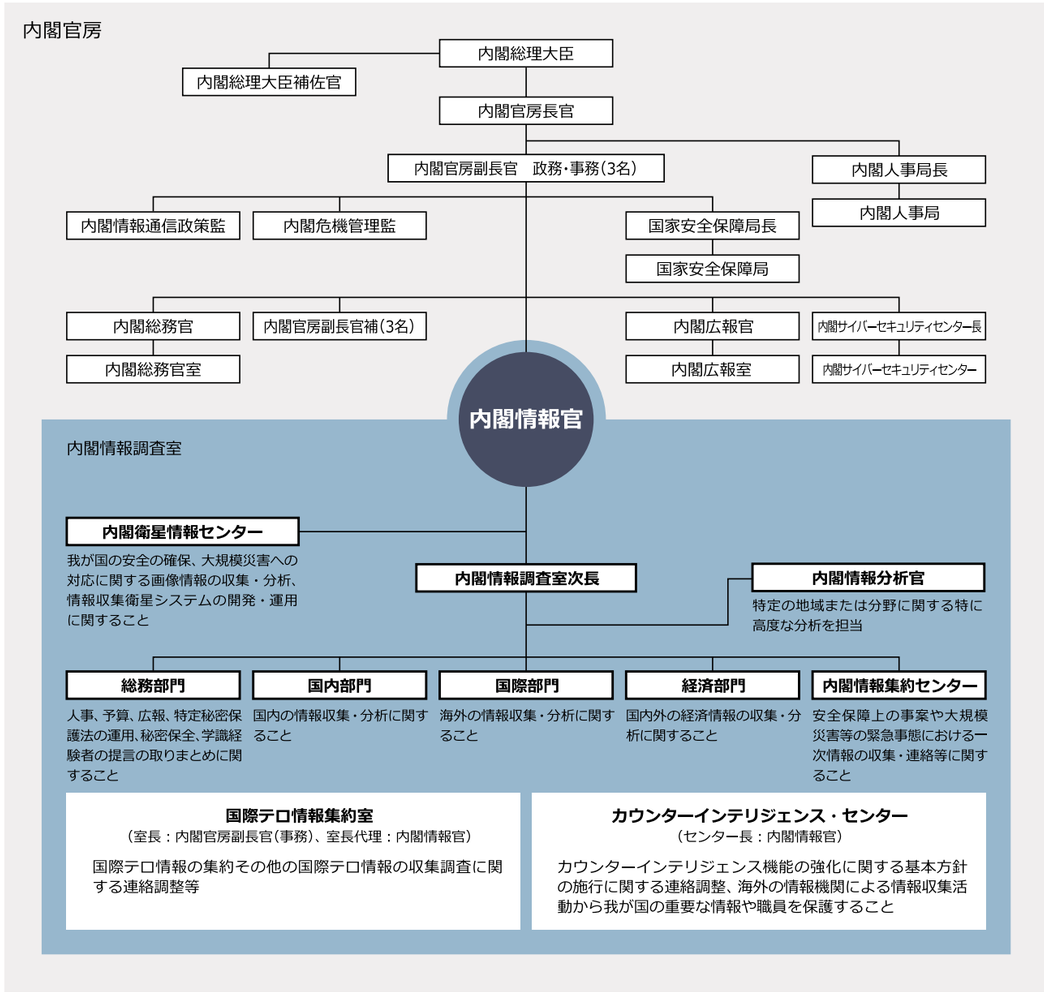
政策決定者が自ら情報収集を行うと、結論ありきの恣意的な内容になりかねません。政策を決める者（政策部門）と、情報を扱う者（情報部門）は、明確に立場を分ける必要があります。しかし両者は乖離することなく、密接にリンクしています。両者は、インテリジェンスの要求と提供を繰り返し、有機的なインテリジェンス・サイクルを形成しています。



Mission 04

内閣情報調査室の組織体制

内閣情報調査室は、４つの部門を基礎とし、近年諸機能を加え、多機能型の総合的な機関として拡大しつつあります。

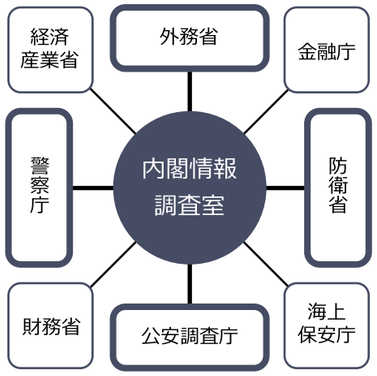


●内閣情報調査室の主な業務

情報コミュニティ省庁との連絡調整

内閣情報調査室は、情報コミュニティの「要」（結節点）としての役割を果たしています。

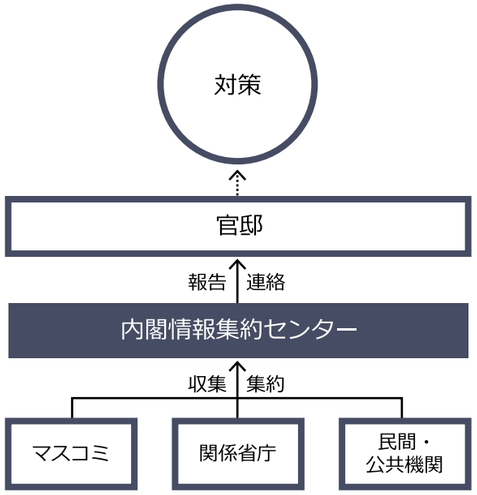
内閣情報調査室は、官邸の政策担当者と情報コミュニティ省庁、両者をつなぐ連絡調整の役割を担っています。閣議決定に基づき設置された内閣情報会議、合同情報会議、情報収集衛星推進委員会及び情報収集衛星運営委員会を開催するほか、当室が中心となって関係省庁との連絡会議を随時開催し、いわば「オールジャパン」で内閣の政策判断を支援する体制が構築されています。



緊急事態の初動対処

安全保障や災害に関わる情報を、当室から官邸幹部に速報します。

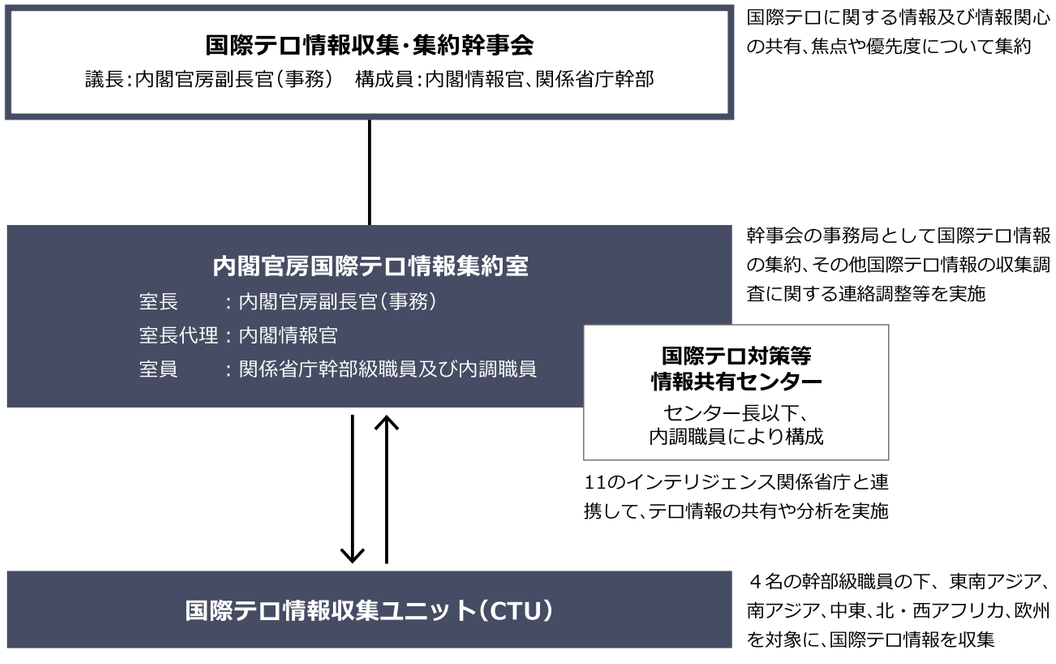
内閣情報集約センターでは、国内外の緊急かつ重要な情報を24時間体制で収集・集約しています。各省庁・内外の通信社との専用回線等のほか、災害発生時には防衛省・警察庁等のヘリコプターから映像をリアルタイムで受信するシステム等を備えています。



国際テロ情報の収集・集約体制

邦人の安全確保のため、官邸直轄で国際テロ情報の収集・集約体制が整備されています。

国際テロ情報の収集・集約体制としては、「国際テロ情報集約室」「国際テロ情報収集ユニット」の２つの組織体が整備されています。「国際テロ情報集約室」は、官邸幹部や関係省庁の情報関心の取りまとめ等を行い、これに基づいて、「国際テロ情報収集ユニット」が、いわば官邸直轄の実働部隊として海外で情報収集を行っています。ユニットは、４名の幹部級の職員の下、東南アジア、南アジア、中東、北・西アフリカ、欧州の５地域を対象に活動しており、我が国として、海外を対象としたファーストハンドの情報収集に取り組んでいるほか、邦人関連テロ発生時に備えた、各国の治安・情報機関との迅速な協力ラインの確立に努めています。
平成27年12月に発足したこの組織には、平成30年８月、「国際テロ対策等情報共有センター」が設置され、テロ情報への迅速な対応体制が新たに強化されました。



総務部門

人事・会計・予算・国会対応といった管理・調整業務のほか、以下の業務を行っています。

情報の総合分析

特定の地域・分野について、内閣情報分析官のもとで高度な分析に従事するとともに、内閣情報会議や合同情報会議の運営等、インテリジェンス・コミュニティの連携を強化するための業務を行っています。

学識経験者の提言取りまとめ業務

国際情勢等をはじめとする各界の有識者から様々な情報や見解、提言等を聴取します。取りまとめた提言は官邸の政策判断に寄与するべく、総理大臣等に報告されます。

特定秘密保護法に関する業務

特定秘密保護法に基づく制度の統一的な運用のため、各省庁からの問い合わせに応じる等の業務を行っています。

国内部門

政治・社会事情について、国民の意見の収集・分析や国内の新聞・放送・雑誌等の論調分析を行っています。

メディア情報を用いた情報収集・分析

政治・社会事情について、一般に公開されている新聞・雑誌・テレビ等のメディア情報の収集・分析を行います。

各界の専門家との意見交換

国政の主要課題に精通あるいは影響力を持つ各界の専門家と意見交換を行い、情報収集・分析を行います。

国際部門

海外の特定の地域や分野に関する情報収集・分析を行っています。

海外関係機関との渉外業務

海外関係機関と情報交換や協議を行い、情報収集・分析を行うほか、関係構築や連携を図っています。

オール・ソース・アナリシス

情報収集には、刊行物やインターネット等の公開情報のほか、例えば人的情報や衛星画像といった多種類の情報収集手段を用いています。これらから得られる情報を総合的に評価し分析する「オール・ソース・アナリシス」の体制を構築しています。

Mission 04

経済部門

日々のマーケット情報や、コモディティ（商品市場）の動向、日々発表される内外の経済指標、国際機関の分析評価レポート、国内外のシンクタンクのレポート、エコノミストをはじめとする有識者の意見等を収集し、政策にとらわれない客観的な経済分析・評価を行っています。

経済安全保障

近年、「経済」の問題と「安全保障」の問題が密接に絡み合った分野について、「経済安全保障」という言葉で語られる機会が増えてきました。国際社会においては、地政学的優位性を高めるために経済的手段を用いる例が多々あります。軍事転用可能な民間技術の流出防止や、サプライチェーンの見直し等、日本が抱える課題は山積しており、内閣情報調査室は日夜情報収集・分析に努めています。

内閣衛星情報センター

内閣衛星情報センターは、平成10年(1998年)の北朝鮮によるミサイル発射を契機に、外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への危機管理のために必要な情報の収集を主な目的として、平成13年(2001年)に設立されました。
現在、光学衛星2機とレーダ衛星2機の4機を運用しています。
今後とも機数の増加や性能向上により情報収集能力をさらに強化し、衛星開発から運用、画像情報分析まで行う唯一の政府機関として、国民に対し貢献できるよう努めていきます。

●情報収集衛星の必要性

我が国を取り巻く国際情勢は依然として厳しく、また大規模な自然災害も続いています。外交・防衛等の安全保障や大規模災害等への対応等の危機管理のための情報収集は怠ることのできない状況です。
内閣衛星情報センターでは、情報収集衛星により撮像した安全保障や危機管理に関する画像を、官邸をはじめとする政府機関に提供するとともに、自ら分析を行っています。画像から得られる情報は高い評価を受けており、各機関で積極的に活用されています。

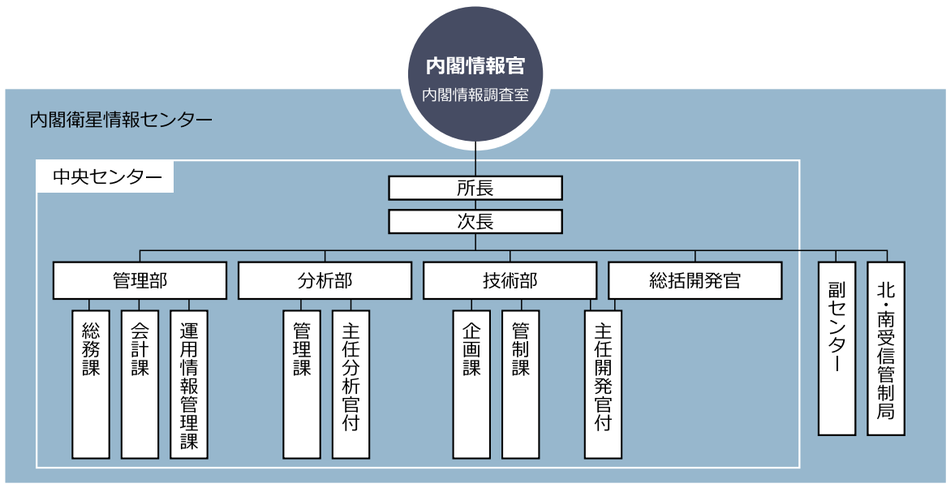
●これからの内閣衛星情報センター

現在内閣衛星情報センターでは、情報収集衛星8機及びデータ中継衛星2機の10機体制の構築を目指しています。
10機体制により、地球上の任意の地点を1日2回以上撮像可能になります。
また、伝送機会の大幅な増加により即時性も向上し、現在よりも鮮度の高いタイムリーな情報を、官邸や省庁等に提供することが可能になります。
他方、複数の衛星の並行開発や10機体制の運用に耐えうる地上施設の開発が求められるとともに、情報収集衛星の運用業務も増加することが見込まれることから、これらを支える内閣衛星情報センター職員の責務は今後さらに重要となると考えています。

©三菱重工/JAXA

●内閣衛星情報センターの組織体制

内閣衛星情報センターは、内閣情報官直下の内閣情報調査室におかれた組織です。
組織体制は所長、次長以下、管理部、分析部、技術部がある中央センター（東京都）と、副センター（茨城県）及び北受信管制局（北海道）・南受信管制局（鹿児島県）から構成されています。
職員は、中央センター、副センター及び北・南受信管制局のいずれかに勤務することとなります。



●内閣衛星情報センターの主な業務

情報収集業務

情報収集衛星を用いた情報収集の業務は、下図のサイクルで行います。このサイクルは省庁等からの要求、撮像計画の作成、衛星との通信、画像処理、判読・分析、分析結果の配布の順に循環しています。サイクル各項目における業務内容及び所掌する部署は、下表のとおりです。

項目	業務内容	所掌部署
省庁等からの要求	政策立案や任務遂行に必要となる情報について、省庁等から要求を受け付け	■管理部
撮像計画の作成	情報収集衛星を用いて地球上のどこを撮像するか計画	■管理部 ■分析部
衛星との通信	情報収集衛星を制御する命令を送信します。また、撮像した画像データを受信	■技術部　■副センター ■北・南受信管制
画像処理	受信した画像データを視認可能なものとするために、画像処理を実施	■技術部
判読・分析	画像を判読・分析し、報告書を作成	■分析部
分析結果の配布	作成した報告書を省庁へ提供	■管理部 ■分析部

情報収集衛星システム開発業務

内閣衛星情報センターでは情報収集の業務だけではなく、情報収集衛星システムの開発※も独自に行っています。
情報収集衛星システムは衛星システムと地上システムに分類されます。情報収集衛星は衛星システムとして、撮像計画の作成や衛星との通信、画像処理等を行うシステムは地上システムとしてそれぞれ開発しています。
情報収集業務を支えるために、運用者のニーズをふまえた的確な開発により、運用しやすいシステムを構築することが求められます。

※内閣衛星情報センターにおける開発業務とは、衛星の設計図の製図やシステムのプログラミングといった専門的な業務ではなく、情報収集衛星システムの開発業者の選定や、開発管理業務を指します。開発管理業務とは、最新の技術情報や情報収集業務及び運用者のニーズから、今後必要となる情報収集衛星の性能等の仕様を決定するとともに、システムの開発状況を管理することです。具体的には、開発予算の作成、最新の技術動向や運用者のニーズの調査、スケジュールの進捗管理等があります。

※情報収集衛星には、現在年間600億円以上の予算が使われています。これは政府の宇宙関係予算の中で最大のものです。

加工処理画像の公開

国内で大きな災害や事故が起こったとき、内閣衛星情報センターでは自治体や国民の皆様に情報を提供するため、情報収集衛星の画像を加工して公開しています。平成27年に公開を始めてから令和2年までの間に、大規模な洪水や火山噴火、地震等８件の災害で、合計153件の画像を公開しています。

北海道勇払郡厚真町吉野地区周辺
（平成30年北海道胆振東部地震による土砂崩れ）

宮城県栗原市中央部
（令和元年10月台風19号に係る被災地域）

キャリアと未来

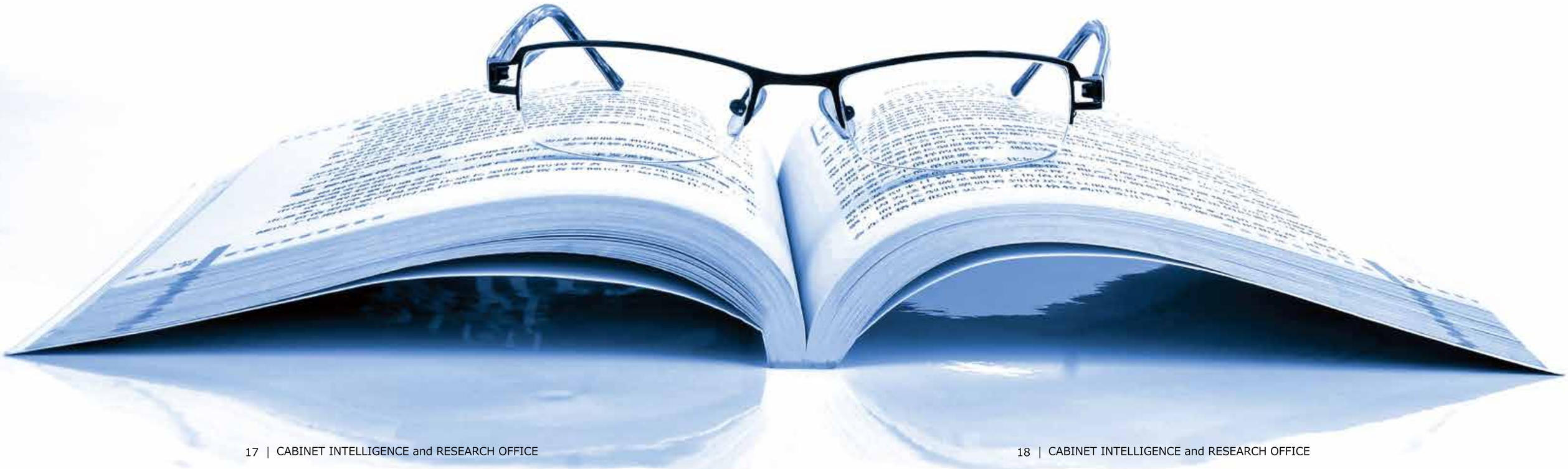
内閣情報調査室職員の声

一層の複雑さを増す国際社会、難解さを極める国内情勢。
混迷の時代に、国家という巨大な船を支えるべく、
内調職員は日々情報を集め、真実を探求している。
内調業務に従事する職員はどんなことを考えながら働いているのか。
職員の声を聞いてみよう。

02 Voice

真実はあまりにも単純だ。
しかし、人は常に複雑な道を経て
そこに辿り着かなければならない

La vrai est trop simple, il faut y arriver toujours par le comlique.
—ジョルジュ・サンド



職員の声

内閣情報調査室には、様々な情報の専門家及び専門家のたまごがいます。
様々なフィールドで新たな課題に挑戦し、組織をリードし続ける６名の職員の声をお届けします。

国際部門

幅広い視野で世界を見つめる
中堅職員・男性

私は国際部門で特定の国について情勢分析を担当しています。
担当する国が我が国の安全保障に与える影響の重大性や官邸幹部の関心の高さに鑑み、私たちは常に当該国の動向を追い、情報の収集・分析を行って速やかに報告しています。
分析では、現在の政治情勢だけでなく、過去の行動パターンや歴史や文化等、様々なバックグラウンドについても深い理解が必要となります。また、担当する国の状況だけを追うのではなく、その国と周辺国等との関係が我が国に与える影響についても常にウォッチする必要があり、分析担当には幅広い視野が求められます。私にとっては毎日が勉強です。
当室の業務は多岐にわたるほか、他省庁に出向すると内調を外部から見る貴重な機会も得られます。私自身、これまでに経験した様々なことが現在に活きていると感じます。
これから入ってくる皆さんにも、ぜひ多くのチャンスを生かして自身のキャリアを築いてほしいです。

内調でしか味わえない達成感・使命感
中堅職員・男性

私は国際部門でインテリジェンス活動に係る企画業務を担当しています。
安全保障上の様々な脅威に対処するため、例えば経済安全保障の分野において、より効率的・効果的に情報を収集・集約・分析できるよう体制構築・改善を進めています。時にはゼロから体制を構築することもあり、多くの関係者と調整を要し、骨の折れる作業となることもあります。
それでも一つ一つの課題を解決していき、自分達が作った体制や仕組みが動き出す姿を見るときは「ものづくり」に似た達成感を味わえます。
また、私たちの仕事は、自らが動かなければ国民の安全が脅かされる世界です。もし皆さんが内調職員として採用されたら、まさにあなたの行動が国民の安全に影響する世界です。そういった環境の中に身を置くことで職員の中に大きな使命感が醸成されていくのだと思います。
ここでしか感じることのできない大きな達成感と使命感を皆さんと共有できる日を心より楽しみにしています。

経済部門

省益ではなく国益に適う業務を
若手職員・男性

私は経済部門で、国内外の経済動向やそれらに関連する出来事等について分析する業務に携わっています。
近年、経済分野は国家間・地域間のパワーバランスや立ち位置、今後の見通しを考える上で極めて重要であり、安全保障上の重要性は一層大きくなっています。
我が国においても、コロナ禍でマスク等の医療物資や生活必需品等、国民の生命に関わるサプライチェーンが分断・混乱したことで、特定国への輸入依存がもたらす安全保障上の危険性が浮き彫りとなりました。もちろん、経済安全保障上の課題については、予てから所管省庁において様々な対策を検討・実施していますが、私たちは所管官庁の政策にとらわれずに、客観的かつ時宜にかなう分析ができるよう努めています。そして、当室の分析結果は政策決定者へと迅速に伝達される機会があり、そのような機会は他省庁では得難いものです。
皆さんも、自分が分析した結果を政府や政策決定者に伝える機会を掴み取るべく、当室の扉を叩いていただきたいと思います。

国内部門

人生を賭けるに値する仕事
ベテラン職員・男性

国内部門では、報道・各種団体関係者等、国政の情報のプロを相手に、日々情報収集を行っています。
国内部門は時の内閣のために必要な情報を収集し続けてきましたし、私自身、その一員として誇りある仕事をしてきたと自負しています。我々の仕事は表に出せるものはありませんが、実際に経験していただければ、皆さんの人生を賭けるに値するものであることは長く国内部門人生を歩んできた者として保証します。
国内部門で働くために必要な資質は何かと問われれば、人との絆を大切にできることだと思います。人との出会いを大切にし、誠実かつ真摯に人と向き合う努力を惜しまないこと、そして、これらを貫き通そうという意志さえあれば、その資質は十分です。
昨年来、日本はコロナという問題に直面し、難しい時代に入りました。ただ、官邸を支えるという内調の役割に微塵の揺るぎもありません。志ある皆さんにお会いできる日を楽しみに待っています。

官邸と国民の声の橋渡し役
若手職員・男性

私は国内部門に所属し、国内情勢に関する公開情報の収集・分析、報告資料を作成する業務を行っています。
新聞やマスコミの報道から、政策や世の中の事象に対する国民の声をとりまとめ、官邸に報告する資料を作成することが主な業務です。
限られた時間の中、数ある公開情報の中から有益な情報を拾い集め、正確に、より分かりやすく資料を作成する緊張感を常に感じている一方、国民の声を官邸に届け、政策の意思決定の一助になっていることに大きなやりがいを感じています。他にはない、政策決定サイドと国民の声の橋渡し役となることに達成感を得られる職務だと思います。
皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

内閣衛星情報センター

最先端の衛星開発に直接携われる仕事
若手職員・男性

私は次期情報収集衛星の開発管理を担当する部署で、衛星の通信機能確認の実施に必要な各種調整を担当しています。
現在の業務は、中央センターにて衛星開発委託事業者からの報告に基づく関係部署への進捗の共有、仕様調整及び幹部報告資料の作成等のいわゆるデスクワークが中心ですが、開発段階の節目には衛星開発工場に出向いて審査会に出席したり、製造中の衛星実機を直接確認したり、時には種子島宇宙センターに出張し、衛星本体をロケットに搭載する現場を確認する機会もあります。
このように国内最先端の衛星開発に直接携わることができることは大きな魅力です。
はじめはわからないことだらけかとは思いますが、意欲的に理解に努め、周囲と協力して業務に取り組める方と働けることを楽しみにしています。

対談「情報の世界について」

1 ベテラン職員編

採用20年以上の職員による対談をお届けします。

Theme : 01

内調ならではの政策との関わり方について、その面白さはどのようなところにあると思いますか。

D やはり、官邸につながっているというリアリティを直に感じ取れるという点でしょう。我々が日々収集し、分析した情報が、官邸へダイレクトかつ速やかに伝えられ、それが官邸における政策決定に活かされる、という内調ならではの臨場感は、他の政策官庁ではなかなか味わえないものでしょう。

A 同感です。近年、国際関係において首脳外交の重要性が再認識されており、内閣直轄の組織である内調としては、首脳外交の様々な面に貢献しています。首脳外交の相手側が真に望んでいるもの（支援等）や、切に避けたいもの（経済制裁等）を正確にタイミング良く提供できれば、首脳外交の一助となります。こうしたやりがいは内調ならではのものでしょう。

B 所掌範囲が限定されていないことも内調ならではの良さだと思います。官邸直属の情報機関である内調は、内閣の重要政策に関するあらゆる事項を情報収集・分析の対象とします。特定の立場や、利害関係から離れて、総理にとって「役に立つ」情報を提供するところに内調業務の醍醐味があると思います。

Theme : 02

今の世界情勢の流れについて、この時代に名前をつけるとしたらどのような言葉を選びますか。

C 冷戦後、米国一強の時代が続き、その間の脅威としてはテロ組織等の非国家主体のものが中心でした。しかし最近では、再び国家主体の「力による現状変更」の傾向がみられるようになっています。私は「伝統的脅威再来の時代」と呼びたいです。

B そうですね。米国一極時代から再び多極化の時代になったと言われています。私は「群雄割拠」という言葉を選びたいです。経済、軍事等伝統的分野での勢力争いのみならず、宇宙・サイバー等新たな分野での主導権獲得競争が激化していくと思います。

D 「歴史は繰り返す。同時に今までにない新たな歴史も作られる」ということでしょうか。

C 国際情勢には、時として似たようなパターンを繰り返しているように見える場合があります。しかし、例えば古代ギリシャと現代では、人口、兵器、情報通信の速度等、あらゆるものが異なっています。「何が共通して、何が異なるのか」を、慎重かつ多角的に分析することが重要だと思っています。

Aさん・男性　内調本室

大ベテランの分析家。国際系で長くキャリアを築き、多くの若手を指導してきた。文学を愛し、シャルドネを嗜むハイセンスな大人。

Bさん・女性　内調本室

地域情勢分析のスペシャリスト。育児と両立しながら海外勤務もこなし、多くの女性職員が憧れる。特技は卓球だが、最近習い始めた娘に追い抜かれる日も近いとのこと。

Cさん・男性 衛星センター

頼りがいのある衛星センターベテラン職員。真面目でコツコツと知識を積み上げる研究職肌。強い信念を持っている。社交的な性格で人望が厚い。

Dさん・男性 衛星センター

衛星センター分析官として長くキャリアを築いている。分析能力が非常に高く、真摯に日々の業務に当たっている。普段から情報収集に怠りがない。

Theme : 03

情報収集の手法に衛星があることは、分析の確度や深度にどのような影響を与えますか。

A 情報活動の基本は、真偽や内容に関する「確認、確認、また確認」の積み重ねですから、確認のツールが多ければより確度の高い情報となります。例えば、ヒューミント（人的情報）に偏ると主観的な分析に傾くおそれもありますが、イミント（画像情報）も併せるとより客観的な分析が期待できます。

C 衛星による画像情報は、地上のありのままの姿を捉えられるというのが大きいですよね。フェイクニュースや確度のはっきりしない情報が溢れる昨今において、実際の地上の状態を画像で確認するのは、情報の正確性を向上させる上で非常に有用な手法と言えます。

B 衛星画像からは、これまであったものが今もある、なかったものが今はある、あったものがなくなった、あるはずのものがない、等の重要な情報が読み取れます。衛星は、新たな情報を与えてくれたり、その他の情報源から導き出される仮説を裏付け・反証してくれるものであり、情報の質を高めるのに大いに貢献していると思います。

Theme : 04

御自身の内調人生を一言で言い表してください。

B 分析業務は、「宝探し」と似たところがあります。センスや技を磨いて、手がかりをつかみ、お宝（情報）が埋まっていそうな場所に行き着き、発掘したものの真価を発揮させるための加工（分析）をする。空振りがないわけでもないですが、めげずに挑戦を続ければ、

ものすごい宝を生み出すこともできるという「知的冒険の日々」を送れると思います。

A 「挑戦の連続」。中堅職員となった頃「世の中の変化が早い」「変化の予兆を察知するのは本当に難しい」「昨日までの情報では歯が立たない」という焦燥感に襲われました。内調の10年選手、20年選手となっても、初めて扱う情報関心事項が突如として眼前に現れる。その際、知ったかぶりや食わず嫌いの態度では対処することはできず、年齢がいくつになっても「挑戦してやろう」という気構えが必要だと思います。

C 「生涯一画像分析官」です。情報収集衛星の打ち上げ前から画像分析業務に携わり、画像情報を収集する衛星の技術の進展と衛星画像利用の変遷をこの目で見てきました。いずれも、20年前と現在とでは比較にならないほどの進展を遂げています。今後は増大する画像情報の素材を、ＡＩ等を駆使して効率的に分析し、各画像分析官はＡＩでは達成困難な、より価値の高い、深みのある分析が求められる時代になります。言い換えれば「知識集約型」の業務となり、このような業務への貢献と、人材育成に今後とも関わっていきたいと考えています。

2 海外勤務経験者編

海外勤務経験のある職員による対談をお届けします。

Theme : 01

外交部門と対比した時、情報機関の海外業務には どのような役割があるのでしょうか。

E 外交との対比でいうならば、情報機関の海外活動は「外交の裏」。複数の国の間で利害が衝突するのは当たり前ですが、それを可能な限り回避するためには、面子や建前を保ちつつ、本音で他国と対話することが必要です。ここで、いわゆる「裏」とされるインテリジェンスの世界が機能します。人間関係も、建前ばかりでは苦しくなってしまうでしょう。かといって本音だけでも良い関係は築けない。2つあることに意味があると思います。

F そうですね。情報機関による情報交流では、当事者以外へのインパクトという要因が除外されます。その特徴を活かした交流により、国家同士のスムーズな意思疎通が一層促進されるものと思います。

G 政策から一線を画した立場というのも大きいと思います。これは全般的に言えることですが、政策官庁の一部にインテル部門が存在する他省庁と違い、インテルのみを扱う当室は、より客観的な情報提供が可能だと思います。政策決定者に対して、問題解決に資する「セカンド・オピニオン」を提供できます。

Theme : 02

海外に内調プロパーを派遣する意義を どのように感じられますか。

G まずfirst handの情報が得られること。インターネットがいくら普及しようとも、現地でなければ判らないもの、感じられないものは多いでしょう。私が赴任した国では現地の専門家は現役の政府高官とも近く、政権内部の話や、公式の会合では聞くことのできない、より本音の話も聞くことができました。

E 同感です。海外勤務者によるフィードバックは、タイムリーであればあるほど情報収集や分析の参考になる。また、赴任先では、他省庁・民間出向者をはじめ、赴任国の様々なレベルの人と交流し、今後につながる人脈ができたり、視野も大きく広がるでしょう。

F 私も、海外勤務の経験は、その後も業務を行う上での大きな糧になっています。政治体制、宗教、文化が日本と大きく異なる環境の中、肌身で感じた生活体験そのものが、活きた財産として、帰任後の当室における業務に反映されることとなります。

Theme : 03

海外勤務されていた時の エピソードを教えてください。

E 人脈を広げるために、現地人の大学教授と連れだって連日のように「葬式」に行っていました。その世界での葬式は、正確に言うと故人の家族が数日間開催する弔問を受け付けるための集いであり、通常、如何なる者でも唐突にその集いに入ることができるんです。献花も香典もいらない。その習慣を利用して、普通なかなか会えない閣僚や地元の古くからの名士に直接あって話を聞いたりしていました。うまくすれば、そこで郷土料理のごちそうにもありつけたり、そこで出会った人たちとまた別の機会に会って彼らの地元に招いてもらったりすることもありました。かなり遊び感覚で異文化社会のディープなところを学ぶことができ、大変有意義な時間を過ごしました。

Eさん・男性　内調本室

国際系職員の大ベテランとして、地域情勢分析全般を統括する。海外経験が豊富で、面白い経験談をいくつも教えてくれる。気さくで温和、上品な笑顔がトレードマーク。

Fさん・男性　内調本室

渉外業務に長く従事するベテラン職員。柔らかな物腰で、常に冷静さを失わない情報収集のプロ。整理整頓を心懸けていて、忙しいときでも机の上は手本のように美しい。好きなお酒は白ワイン。

Gさん・男性　内調本室

国際系のキャリアを築く中堅職員。静かな笑顔の下にアツい闘志を燃やし、常に大局的な見方で解を導く。多趣味で、美術館巡りや史跡巡り、寄席が好き。好きな講談師は神田伯山。

G シンクタンク主催のセミナーを聴講した際、隣に居合わせた御老人と雑談したところ、レーガン政権の大統領補佐官だと判り、面会を取り付けて朝食を御馳走になったことがあります。「官邸直属の組織で、国の重要政策に資する仕事が出来るとは素晴らしいキャリアだ」と元補佐官から温かい言葉をいただいたことは忘れられない思い出です。

Theme : 04

どのような人に海外勤務に 挑戦してほしいですか。

F 海外勤務は、自分の可能性を全方位で探る良い手がかりであり、また、日本と赴任国に関する知識・経験を得て、様々な関係者と関係を構築する機会でもあります。挑戦を積み重ねたい、成長したいと考える方には、是非とも海外勤務を希望していただければと思います。

E 海外勤務は、新しいことをやってみたいという開拓精神がある職員にやってもらいたい。外国語はうまいに越したことはないですが、下手でも心意気が伝わればいい。我々は通訳になるわけではないから。海外勤務では、新しい人脈を築くことで多様な情報が集まることを体感してほしいです。それによって、将来にわたって内調が組織としてどう工夫すれば良い情報が集まるかを考える姿勢を身につけてもらいたい。そうすれば、帰国してからもその考えが自分自身のため、組織のために活かされるはず。

Theme : 05

最後に、国際系勤務を志す学生の皆さんに メッセージをお願いします。

G 一昨年『サードドア』という本が米国で出版され、各種メディアで取り沙汰されていました。同書の趣旨で面白いのは、成功者の多くが、人々が行列をなす第一のドア、選ばれし者だけが入場できる第二のドアではなく、裏道の先にこっそりたたずむ第三の扉の門を叩いているということ。安全保障に関心があり、国際系で活躍したい学生にとって当室は、外務省・防衛省といった巨大官庁でも、博士号を取得してアカデミアで活躍するのでもなく、「サードドア」ではないかと思います。陰ながら国の安全に奉仕する静かな愛国心を持った皆さんと働ける日を楽しみにしています。

E 内調の国際部門では、見えないところで国を支える仕事の醍醐味と緊張感があります。自分を磨き続けることができる人だけが、この独特な仕事の面白さと奥深さを感じ取ることができ、その先にある達成感を味わえる職場とも言えます。こういった環境で国家を支えたい気持ちがある人に、内調の次の世代を担ってもらいたいです。

3 理系出身職員編

理系学科出身の職員による対談をお届けします。

Theme : 01
理系職員のキャリアパスについて教えてください。

J 理系出身者には２種類のキャリアパスがあり、衛星センター技術系職員と、全区分枠採用の理系職員で、キャリアステップがやや異なります。技術区分の受験者は、官庁訪問の時点でどちらを希望するかを選択することになります。

H 衛星センター技術系職員については、採用されてからキャリアの大部分を衛星センターの中で築いていくことになります。私の場合だと、最初は管理部総務課に配属されました。その後、技術部門で衛星技術に関する調査研究や画像処理システムの開発、衛星画像の解析手法に関する技術調査等に携わりました。

I 私も衛星センター技術系職員です。現在「人工衛星の管制運用」の業務を担当しています。今の担当になる前は、システム維持管理、システム開発、そして副センターの受信管制局の運用といった業務も経験していました。

J 全区分枠採用の理系職員については、キャリアステップは行政系職員と同じになります。行政系のポストを含む様々な部署を経験した後、本人の希望や適性等を考慮した配属をされることになります。サイバー等の技術系分野やシステム管理業務だけでなく、国際や経済等、幅広い選択肢の中からキャリアを考えることができるのが特徴です。

Theme : 02
内閣情報調査室全体の中での理系職員の立ち位置についてどのように表現しますか。

I 理系職員の立ち位置としては、他の職員との「つなぎ」になると思っています。技術的な話や専門的な話が苦手な方は多くいると思っています。このようなときに、理系職員が間に入り、相手の理解を確認しながら具体化させ、分かりやすく噛み砕いて説明していくことが求められてきます。

J 同感です。いわゆる「橋渡し人材」という言葉が合っていると思います。分析業務において、インテリジェンスの提供先は、技術的な専門知識のない方が大多数であり、そのような方々にも分かりやすく伝えなければなりません。技術系の管理業務においても同様です。業務を進める上で、幹部や他の職員に分かりやすく説明する必要があります。

Theme : 03
理系職員として内閣情報調査室で働くやりがいはどのような所にあると思いますか。

H 衛星センター技術系職員としては、部署によっては自ら衛星の運用、画像の分析、データ解析等を行うことができるほか、将来の情報収集衛星システムの開発に関する計画策定等に携わる機会もあるため、様々な専門性を活かすことができると思います。また、調査研究に限らず多くの業務において、情報収集のために専門家からの意見聴取や学会への参加、関連企業や国内外の関連機関の訪問等を行う機会があり、日々最新の技術動向に触れることができます。

J 全区分枠採用の理系職員については、やはりキャリアの選択肢の幅広さが魅力だと思います。技術区分の受験者には、自分の理系としてのバックグラウンド

Hさん･女性 衛星センター
衛星センター技術系職員。どんなときも冷静に、また抜かりなく職務を行う。時短勤務制度を活用しながら業務と育児の両立を図っている。

Iさん･男性 衛星センター
衛星センター技術系職員。職人肌で、これと決めたものを貫く性格。専門外の人にも分かりやすい説明で人望を集める。堅実で、業務に役立つ勉強を常に怠らない。

Jさん･女性　内調本室
全区分枠採用の理系職員。ベテラン職員から厚い信頼を集める分析のプロ。日本酒を嗜み、特に好きなのはイワナの骨酒とフグのヒレ酒。料理が得意で目にも留まらぬ早さで野菜を切れる。

を活かして働きたい人もいれば、それまでの専門とは全く別の分野にも挑戦したい人もいると思います。どちらのタイプの人にも選択肢が用意されているのが魅力です。他省庁の理系職員よりも活躍の場は広いと思います。

Theme : 04
理系職員に今後さらに求められる能力や資質はどのようなものだと思いますか。

J サイバー空間における技術等の動向については、世界の政治や経済との関係性が増しており、世界情勢を見る上でますます重要なものになっています。内調全体として、技術的素地のある職員が必要となる場面も増えている状況にあると言えるでしょう。成長産業の分野として、めまぐるしく変わる情勢に敏感に対応していく能力が必要かと思います。

H そうですね。成長産業という言葉で言えば、今後ＡＩ技術の業務への活用が検討されていくことが予想される中、最新の技術動向に精通し、ＡＩツールの活用のための専門的知識・技術を持つ人材や、高い情報処理能力を持つ人材が求められると思います。

Theme : 05
最後に、内閣情報調査室を目指す技術系学生にメッセージをお願いします。

J 当室では、理系職員のキャリアパスの枠組みを超えた幅広い業務を経験できると思います。情報収集・分析を主な業務としている内調の仕事は特殊で、他では経験できない、知的な業務を経験できると思います。その中で、必ず皆さんの専門的な知識を活かすこともできるでしょう。

H 内閣情報調査室に採用されると、専門分野を問わず様々な業務を経験することになります。衛星画像の分析や最新技術の調査等、衛星センターならではの仕事はどれも他の職場では経験できないもので、技術系の皆さんにとって、やり甲斐と楽しさが実感できると思います。

I 主体的に取り組んでいけば自分でいろいろ決めることができるので、とてもおもしろい職場だと思います。その反面、大変なことも出てきますが、どんな困難にもめげずに立ち向かい、そして挑戦し続けることができる強い志を持った方の応募をお待ちしています。

１年目職員の声

内調の志望動機は？

［組織・業務の特殊性］

●**情報収集を専門に扱えるという点。**「情報分析」という側面から国の危機管理・安全保障に携わることに関心を持った。

●**官邸と近く、大きな仕事ができる**と考え志望した。

●**イミントの可能性に惹かれたから。**世界でもトップレベルの衛星を持つ組織で働くことに魅力を感じた。

●**インテル官庁の中でも柔軟性が高く、国際環境の変化に対する対応能力が高いと感じたため。**日本の情報機関の中で、一番「情報機関」らしい組織だと感じた。

［幅広さ］

●人々の暮らしを守る仕事がしたいと思っており、民間や他省庁では関われる分野が限られると考えていたところ、**内調の国内、国際、経済、テロ等、様々な分野に関われる幅の広さに惹かれた。**

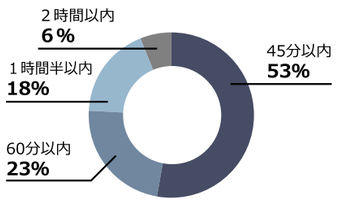
●幅広い分野をカバーする内調ならば、多くのやりたいことを見つけられると感じた。

［職場としての魅力］

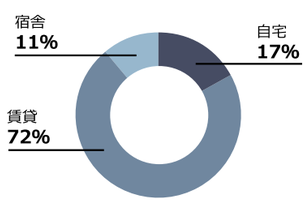
●他省庁と違って独自のカラーがなく、**様々な省庁の出向者と一緒に業務に取り組むのが面白そうだと感じた。**

●説明会でお会いした先輩職員の方が明るく、一緒に働きたいと思ったから。

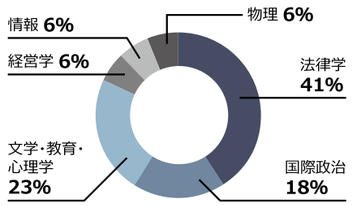
通勤時間は？



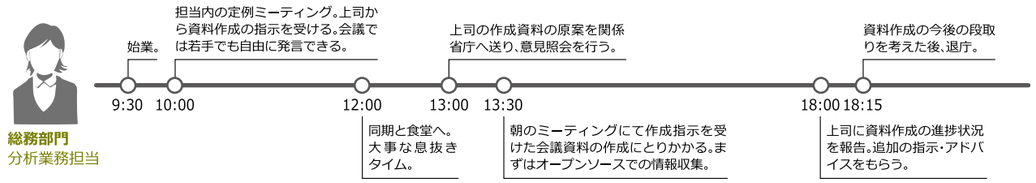
自宅？賃貸？宿舎？

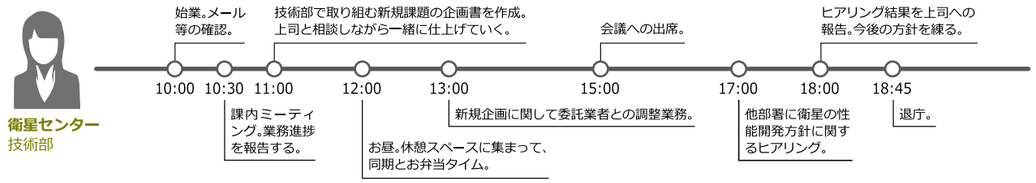


大学（大学院）での専攻は？



若手職員の１日のスケジュール





どのような人が内調に向いていると思いますか。

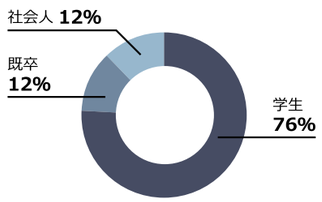
●幅広い分野を扱っているからこそ、**好奇心が強く、果敢に挑戦できる人。**

●**多角的な見方ができる人。**真実に近づくためには客観性が必要。カスタマーが何を欲しているか察知するために、官邸の動き、国、世の中の動き、何に対しても関心を持つ姿勢がある人。

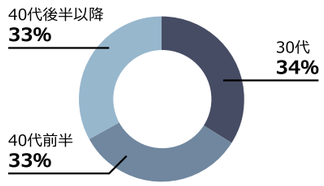
●内調の仕事はチームプレーのため、人と積極的に関わろうとする姿勢がある人。

●秘密保全の意識を高く保てる人。

官庁訪問時の身分は？



上司は何歳くらい？



退庁時間は？

「内調」を一言で表すと？

●**人種のるつぼ**…… 出向者も多く、いろいろな経験・背景を持った人がいる。

●**スタートアップ**…… 常に時代の新しい要請に応じる必要があるため。

●**八百屋** …… 野菜同様、鮮度の良い情報を収集・提供することが必要とされるから。

●**いぶし銀**…… 内調は目立たない存在だが、総理を支える重要な仕事を担っている。

10年後までに達成したい目標はありますか。

●多言語ができることは内調ではとても武器になる。10年後までには、３言語ほど仕事で使えるレベルにしていたい。

●この分野でキャリアを積みたいという分野を見つけて、その分野の知見を身につけ、専門家として知識面で組織に貢献できるようになっていたい。

●海外勤務に挑戦したい。そして「自分だから収集できた」と思える情報を収集してみたい。

キャリアステップ

日本の情報コミュニティの柱となる人材の育成を目指し、内閣情報調査室では様々な研修のほか、他省庁への出向、在外公館交官勤務等、キャリアアップのための豊富な機会を積極的に設けています。多種多様な経験を経て、収集・分析・管理のいずれかの専門家になることを目指しています。

全区分
キャリアステップ・３つの柱

入庁後、様々な部署を経験（1～2年）
基礎研修を受けるほか、室内の部署を一通り経験し、基礎的なスキルを身につけます。

↓

本人の希望・適性に応じ、本格的に情報業務に従事（概ね３～４年目より）

↓

いずれかの専門家に

- 収集
- 分析
- 管理

内閣衛星情報センター
技術系

入庁後、衛星及び地上施設の開発業務や衛星の打ち上げの管理を経験

↓

衛星の管制・画像処理業務等に従事

語学習得の支援

語学学校への通学補助や、組織での研修等を行っています。

研究員派遣制度

人事院の研修制度（長期在外研究員派遣制度、行政官短期在外研究員等）を活用して、「専門性」に磨きをかける機会を設け、職員がスキルアップできる環境を整えています。

在外公館勤務

内調職員として培った知識・経験を活かして海外で勤務します。在外公館勤務は海外で多様な人々と仕事をする貴重な機会であり、希望する職員には積極的に機会を与えています。

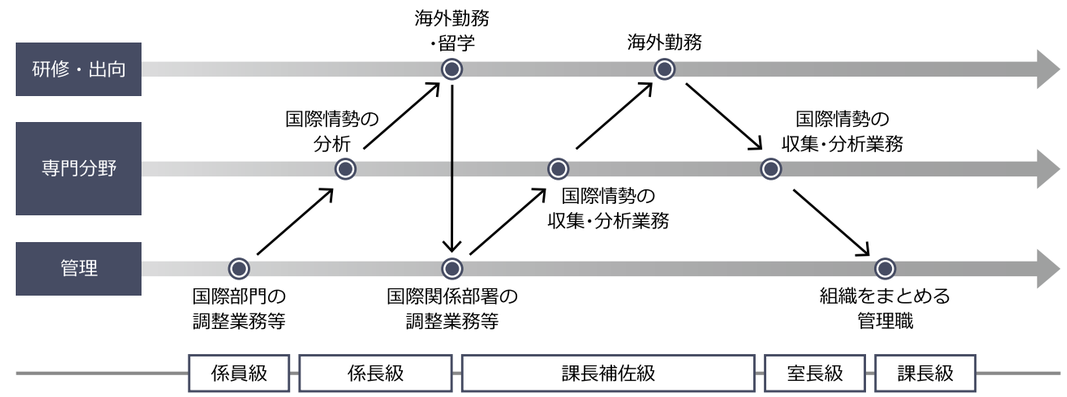
他省庁への出向

専門性を強化し行政実務経験を積むため、情報コミュニティ省庁（警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省）や内閣府等への出向の機会があります。

新任者研修

新規採用の職員向けに複数回に分けて実施します。秘密保全教育に加え、情報機関の役割、各部門の業務を知ることで、日本の情報体制及び内調の全体像を具体的に把握し、日本の情報コミュニティの中核となる人材の素地を作ることを目的としています。

国際系職員のキャリアステップの例



海外留学派遣者

私は国際部門において、特定の地域・事項の分析や、企画・調整にかかわる業務に携わってきました。その中で痛感したのは、自分の国際情勢に関する知識の狭さ、思考のロジックも我が国の立場からの見方に偏っているということでした。そうした中、自身の知識の醸成や国際感覚を養うため、また、諸外国の研究員等との人脈を開拓するため米国の大学院に２年間派遣されることとなりました。
米国の大学院では、優秀な学生や社会人経験者が世界中から集まり、日々、最先端の研究やディスカッションに勤しんでいます。そうした最高の環境に身を置き、知識を育み、経験を積みながら、今後の情報分析業務に活かしたいと考えています。また、海外の情報機関の中には、「分析を担当する情報機関員は修士号や博士号を持っていて当たり前」との認識もあるため、国際的なインテリジェンスの世界において対等な立場で協議、交渉、情報交換を行うためにも、今後、内調職員の修士号、博士号取得の必要性が高まるものと思われます。

国際テロ情報の収集業務担当者

初めての海外勤務は入庁５年目の春。某先進国で約2年間勤務し、その後はCTUに配属。そして、半年も経たないうちに再び海外勤務となり、約３年半、CTU要員として日本政府による「ファーストハンド」の国際テロ情報の収集活動に携わりました。
手垢のついていない情報収集というのは、さながら宝探しのようなもので、日々、胸を高鳴らせながら業務に取り組んでいました。当然ながら、宝の手がかりは手元にはなく、現地の人たちの考え方・生き様・文化・風習、社会を理解し、寄り添うことから始めました。
しばらくすると、「もの」と「もの」をつなぐ糸、つまり現地特有のロジックや因果関係がぼんやりと見えてくるようになります。私の所作を見た現地の人から、「あなたはまるで私たちと同じ××のようだ」と言われるようになった頃、自分が正しい方向に進んでいるかどうかが、なんとなく分かるようになっていました。「ここを掘れば、何か出てきそうだな」という直感が働くようになり、これが的中した日の高揚感は、夜も興奮して寝付けないほどでした。

両立支援（ワークライフバランス）制度

内閣情報調査室では、職員のワークライフバランス両立支援を目的とし、以下の制度の推進に取り組んでいます。

産休・育休制度	女性職員	産休制度	産前６週間～産後８週間までの期間に取得可
	男性職員	男性の産休制度	配偶者の出産に際し合計７日間の休暇を取得可
	全職員	育休制度	子が３歳に達する日までの期間取得可 ※特に男性職員については、生後１年の間に１箇月以上の取得を推奨
育児に係る時間短縮制度		保育時間制度	生後１年未満の子を育てる職員（男女問わず）が、 １日２回30分ずつ取得可（有給）
		育児短時間勤務制度	小学校就学前の子を育てる職員（男女問わず）が、 希望する日・時間について取得可
各種休暇制度		年次有給休暇 （年休）	理由を問わず取得できる休暇。毎年20日ずつ付与され、 前年の未使用分は20日まで繰り越し可
		特別休暇	用途の定められた休暇。冠婚葬祭や夏期休暇（３日）等
		生理休暇	生理日の就業が著しく困難な場合に取得可
		病気休暇 （有給）	入院や手術等、私傷病により休まなければならない場合、 最長３箇月間取得可（有給）

職員の声　ライフの充実がワークの活力に

私は現在外務省に出向し在外公館で勤務しています。私が海外赴任するにあたり、幸運にも家族の都合がつき当地では夫・子供とともに生活しています。
在外公館では、日本外交の一拠点として赴任国政府との連絡や交渉を行ったり、赴任国や周辺地域での政情について情報収集する業務を行っています。職場では朝一番に外務本省からの連絡や報道を確認し、急ぎの案件があればすぐに対応します。終業・帰宅後の家族との時間も大切にしたいため、勤務時間中は、それぞれの仕事の優先順位に気をつけながら、集中して効率よく業務に取り組むようにしています。オフの時間にこの国でしか体験できない景色や食べ物、休日の過ごし方等を家族と共有できることが明日の仕事の活力へとつながっています。
内調では「女性だから」「育児中だから」という理由で進路が限定されることはありません。一方で、男性職員含め産休・育休等の制度利用には配慮や理解があるため、家庭と仕事を両立しながら自分なりのキャリアを形成していくことが可能です。悩むことがあれば経験豊富な先輩方に是非相談してください。

待遇・制度、採用について

内閣官房は原則として各省庁からの出向者で構成されていますが、内閣情報調査室はその中で唯一独自の定期的採用を行っています。
令和３年度より、インテリジェンス機関としての求心力をより高めるべく、内閣情報調査室は内閣衛星情報センターと一体化して採用活動を実施します。

採用数一覧表 ※（　）内は女性の数

試験年度	令和元年度	令和２年度
内閣情報調査室	12（４）	９（３）
内閣衛星情報センター	７（６）	６（４）

令和３年度	
全区分（行政・技術問わず）	**９人程度**
内閣衛星情報センター技術系	**３人程度**

採用はどのように決定していますか。

内閣情報調査室では、国家公務員一般職（大卒程度）からの採用を行っており、令和３年度より、内閣衛星情報センターと一体化して採用活動を実施します。官庁訪問では、１人の学生に対し複数回の面接を行っており、受験者の人柄、企画力、コミュニケーション能力、将来性等を総合的に評価します。

求める人物像を教えてください。

- 情報収集・分析等のプロフェッショナルとなる「強い意欲」をお持ちの方
- 広く社会全体にアンテナを高く張り巡らせる「視野の広さ」、物事の背景を解き明かしたいと思う「好奇心」をお持ちの方
- 時に困難な状況にあっても、解決策を見出そうとする「粘り強さ」のある方

上記に限らず、当室にご興味のある方は積極的に門を叩いていただければと思います。

技術系区分の採用は行っていますか。

技術系も全区分から採用を行っております。技術系職員には、特にサイバー分野での活躍が期待される一方、特定の分野に囚われず、文系分野にも積極的に挑戦いただけるキャリアステップを用意しています。
他方、内閣衛星情報センター専任の技術系職員を志望する方には別枠のキャリアステップを用意しています。官庁訪問の際には、技術系区分受験者は上記２つのどちらのキャリアステップを希望するか選んでいただき、それぞれの枠で選考が行われます。

語学力はどれくらい求められますか。

当室では、国際関係業務は拡大傾向にあり、採用後の業務においても語学力が要求されることがあります。しかし、官庁訪問時に必ずしも高い語学力を有している必要はありません。自信がなくとも積極的に挑戦いただければと思います。ただ、国際関係業務を志望する方は、採用後に身につけようとする意志は持っていて欲しいと思います。

初任給（令和元年度現在）
一般職（大卒程度試験）合格の場合
行政職（一）1 級 25 号俸 225,840 円
（地域手当、本府省業務調整手当含む）
※大学院卒、社会人経験のある方は俸給月額が加算されます。

賞与（ボーナス）
期末手当、勤勉手当として、年間4.45月分

諸手当
扶養手当、通勤手当、住居手当、超過勤務手当等

勤務地
内閣府本府庁舎（東京都千代田区永田町1-6-1）・在外公館等
※国内では永田町以外の勤務地はありません。

勤務時間
原則 9：30 ～ 18：15

休日
年次有給休暇 20 日間
（4月採用者は、その年の12月まで15日間）
特別休暇（夏季、結婚、忌引等）
※仕事と育児・介護の両立を支援する制度があります。

福利厚生
●共済組合制度（医療費の給付、診療所、契約施設（保養所等）の補助）●グループ保険制度（団体保険、団体積立）●診療所（内科、歯科）●定期健康診断●人間ドック

2021年度採用スケジュール

4月	2～14日	国家公務員採用一般職試験(大卒程度)受付期間
6月	13日	第一次試験日
7月	7日	第一次試験合格発表／官庁訪問予約受付開始
	9日	官庁訪問開始
	14～8月2日	第二次試験(人物試験)日
8月	17日	最終合格発表日
10月	1日	採用内定

採用担当者からのメッセージ

令和３年度の採用からは、これまで別々に行っていた内閣情報調査室と、その一部局である内閣衛星情報センターの採用を一本化します。これは、国家間の対立の時代に変わってきている世界の流れに対応すべく、より幅広い知識と経験を持った、日本の情報コミュニティの中核となるインテリジェンス・オフィサーを育成するためです。

インテリジェンスの世界は常に進化しています。従来の仕事のやり方にとらわれない、チャレンジ精神が必要です。そして何よりも、影ながら日本の安全に貢献したいという意志を持った人を求めています。

コロナ禍での就職活動は何かと大変だと思いますが、ぜひ説明会や官庁訪問の際に、直接、職員に会って、自分の仕事として人生をかけてみたいと思える世界かどうか覗いてみてください。

内閣情報調査室の説明会情報

内調採用ホームページを御確認ください。
https://www.cas.go.jp/jp/saiyou/saiyou_index.html

連絡先

内調情報調査室　採用専用TEL：03－5253－2107
内閣衛星情報センター　採用専用TEL：03－3267－9564

内閣情報調査室の歴史と発展

内閣情報調査室は、戦後、我が国が国際社会の荒波に耐えうるよう、旧総理大臣官邸の小さな一室で産声をあげました。着実に発展の道を歩み、年々組織の重要性が高まっています。

昭和27年4月9日
第３次吉田内閣

内閣総理大臣官房調査室
（総理府の組織として新設）

昭和32年8月1日
第１次岸内閣

内閣調査室
（組織変更により内閣官房に）

昭和61年7月1日
第２次中曽根内閣

「合同情報会議」を設置

内閣情報調査室
（内閣官房の組織再編により名称が変更）

平成8年5月11日
第１次橋本内閣

「内閣情報集約センター」を設置
（緊急な重要情報を24時間体制で収集し、内閣総理大臣等へ報告する）

平成10年10月27日･12月22日
小渕内閣

「内閣情報会議」を設置

情報収集衛星の導入について閣議決定

平成 13年1月6日
第２次森内閣

内閣情報官を設置
（中央省庁再編に伴い内閣情報調査室長から格上げ）

平成13年4月1日
第２次森内閣

内閣衛星情報センターを設置
（情報収集衛星の開発・運用、画像情報の収集・分析）

平成20年4月1日
福田内閣

カウンターインテリジェンス･センターを設置
（外国の情報機関による情報収集活動から我が国の重要な情報や職員等を保護）

内閣情報分析官を設置
（特定の地域または分野に関する特に高度な分析）

平成26年12月10日
第２次安倍内閣

「特定秘密の保護に関する法律」の施行
（内閣情報調査室が特定秘密の保護に関する企画及び立案並びに総合調整事務を所掌）

平成27年12月8日
第３次安倍内閣

国際テロ情報の集約「国際テロ情報集約室」を設置
（国際テロ情報の集約、国際テロ情報の収集調査に関する連絡調整）

平成30年8月1日
第３次安倍内閣

国際テロ情報集約室に「国際テロ対策等情報共有センター」を設置
（内調を含む関係11省庁と連携し、テロ情報の共有・分析を行う）